

洋ランの育て方

出典：NHK出版「みんなの趣味の園芸」ホームページより（2001.04.03）

属名など	栽培環境	水やり	肥料	用土	植え付け。植え替え	ふやし方	主な作業
【コチョウラン】  Phalaenopsis	やや暖かめ(18 以上)を好むので、冬は室内の暖かい場所で、春の終わり(5月下旬)から秋の初め(9月下旬)までは戸外で管理します。また、強い日光を嫌うので、夏は40～50%の遮光ネットの下に置きます。冬は室内の直射日光の当たらない、やや明るい場所に置きます。	夏は多め、冬は少なめを基本とします。また、与えるときにはたっぷりと与え、次の水やりは植え込み材料がやや乾くまで待ってから行うようにすることも大切です。びしょりとぬれた状態で寒さに当たると根腐れを起こしやすいので、冬の水やりには注意が必要です。	春(5月上旬)に緩効性化成肥料を置き肥し、その後秋(9月下旬)まで週1回、液体肥料を施します。緩効性化成肥料の代わりに有機系固形肥料を用いる場合は、夏までに2回程度取り替えます。	水ゴケ、洋ラン用パーク、ヤシ殻チップをそれぞれ単体で使用します。植え込む鉢は、水ゴケの場合は素焼き鉢、洋ラン用パーク、ヤシ殻チップの場合はプラスチック鉢植えとします。	2年に1回程度行います。春の終わりから初夏(5月上旬から6月下旬)が一番の適期で、この時期に植え替えるとその後の生育がたいへんよくなります。ただし、真冬でも室温が20 程度ある場合は、季節を問わず植え替えが可能です。	わき芽をあまり吹かず、ふやしにくい種類です。まれに出てくるわき芽が大きくなったときに分けるか、花茎に高芽ができたときに根が伸びてから切り取り植えます。	支柱立て：花茎がある程度伸びてきたら支柱を立て、花茎を上向きに支えておきます。支柱を立てずに開花させると、花の向きがばらばらになり、あまりきれいに咲きません。花がら摘み、花茎切り：しおれてきた花は1輪ずつつまんで取ります。また、花茎についた蕾の半分くらいが咲き終わったら、花茎を切ります。株が大きく、しっかりとした葉がある場合は、下から2～3節を残して切ると、残った節からまた花芽が伸びてきます。葉の少ない株や葉が垂れて弱っている場合は、つけ根から花茎を切り、株を養生させま
【デンドロビウム】  Dendrobium  <ノビル系>	3月下旬から11月上旬までは戸外で管理し、冬の間は室内の日当たりのよい窓辺に置きます。1年を通し十分日光に当てるのが大切で、特に長い時間帯に当てるようにするとよく開花します。5月初めから9月初めまでは弱めの遮光をして葉焼けを防止します。庭木の下などはやや暗すぎる場合が多いので注意が必要です。また、できるだけ株どうしの間隔をあげ、風通しがよくなるようにします。	もともと樹木に着生するランですから、根がびしょりとぬれたままになるのは嫌います。水をたっぷりと与えたあとは、植え込み材料がやや乾いてくるまで次の水やりは行いません。初夏から9月ごろまでは生育がおう盛になるので、この期間のみ、ややぬれていてもたっぷり水を与えます。10月からは乾かし気味にし、ややバルブがやせてくる程度の水やりとします。その後節々から花芽が見え始めたら水をやや多めにして、開花まで同様の水やりをします。	ノビル系は肥料を施す期間に限られているため、長期間にわたり肥料効果がある緩効性化成肥料は避けます。4月から7月末まで月1回固形の油かす系肥料を施し、さらに週に1回液体肥料も施します。8月以降も株は成長を続けますが、肥料は施しません。	水ゴケと素焼き鉢の組み合わせか、細かめの洋ラン用パークとプラスチック鉢との組み合わせで植え込みます。	植え替えは2年に1回程度、春の花後に行うのが標準。春遅くに開花した場合は、早めに花を切って植え替えを行います。	バルブの上部に高芽を比較的多く出します。高芽が小さなバルブになり、根を伸ばしたころを見計らって指で摘み取り、水ゴケで小さな鉢に植えつけます。また、株が大きくなった場合はバルブを4本程度ずつつけて株分けも可能です。	花がら摘み、節々に咲く花は1輪ずつしぼんでくので、しぼんできた花から順次指で摘み取る。半分以上の花が終わってきたら、節から伸びる短い花茎をハサミで切り取る。バルブを根元から切らないように注意しましょう。バルブを切ってしまうとその後生育しなくなってしまいます。支柱立て：秋、バルブがほぼ伸びたころに、支柱を立て株の姿を整えておきます。ただし、小型の品種はバルブがしっかりと立ち支柱が不要のものも多くなっています。
<キンギアナム系>	できるだけ強い日光の当たる場所で管理します。春4月ごろから戸外で直射日光に当てて栽培すると、葉も丈夫になり真夏の強光でも日焼けをすることが少なくなります。戸外に出す時期が遅くなった場合は、初夏から秋まで弱めの遮光をしないと葉焼けを起こすことがあるので注意します。寒さには比較的強いですが、10月下旬には室内に取り込み、日当たりのよい窓辺に置くようにします。	春の新芽の伸び始めから秋にバルブが完成するまでは、比較的多めに施します。秋から冬は乾燥させます。春に花芽が伸び始めたら十分な水やりを行います。花芽が伸び始めてから水が足りなくなると、せっかくの蕾が開花せずに落ちてしまいます。	肥料は少なめでも比較的よく育つランです。5月から7月までに集中的に施し、そのほかの季節は肥料は施しません。長期間にわたり肥料効果のある緩効性化成肥料は効きすぎになることもあるので避け、固形の油かす系肥料を月1回置き肥します。さらに液体肥料も週1回施します。秋遅くまで肥料を施してしまうと、高芽をふやしたり、開花しなくなるので注意しま	水ゴケと素焼き鉢の組み合わせか、細かめの洋ラン用パークとプラスチック鉢との組み合わせで植え込みます。	植え替えは2年に1回程度、春の花後に行うのが標準。春遅くに開花した場合は、早めに花を切って植え替えを行います。	春に株分けをしてふやします。あまり小さく分けると生育不良になるので、最低でも5バルブ程度はつけるようにします。株の頂部に高芽を出すこともあるので、その場合は高芽に根が出てきてから摘み取り小さな鉢に植えつけます。	花がら摘み：花が半ばまで終わったらバルブと葉を残して花茎を根元から切り取ります。株は自然に形が整い、花茎もしっかりと自立するランですから、支柱立てなどの作業は必要ありません。
原種：ロディゲシ	【あるHPでは】 栽培は容易です。ミスゴケ植えやヘゴなどにくっつけます。水は好むほうですが過湿にならないようにしましょう(度が過ぎると高芽ばかりが出来て花が咲いてくれません)。風通しよく明るいところに置きます。やや暗くても育ちますが花つきが悪くなります。寒さには強いほうで寒風と霜を避け乾燥気味にすると屋外で越冬してくれます(寒冷地では保護が必要です)。増殖は春の植え替え時に株分けや高芽を取って植えつけます。					【あるHPでは】 日当たりが強すぎてもだめで、温室の半日陰になるところがお好みようです。	【あるHPでは】 肥料は7月でやめて、寒さに35日はあてないと咲かないそうですよ。霜の降りる寸前の12月始めに部屋に取り込みます。
<デンファレ系>							
<フォーサモス系>							
【デンドロキラム】  Dendrochilum	5月から10月の気温が高い時期は、戸外に置き、30～50%ほどの遮光をします。風通しのよい場所を選ぶとよいでしょう。11月から4月までは、室内の日当たりのよい窓辺に置き、レースのカーテン越しの日ざしを十分に浴びさせます。天気がよい暖かい日は窓を開けて風を通します。ふだんから置き場の風通しには注意することが大切です。	植え込み材料が乾いてから、水やりするのが基本です。気温や乾き具合に応じて、水やりの量と回数を調整しましょう。パーク植えのものは、乾きすぎに注意をしましょう。梅雨の間は雨に当ててかまいませんが、植え込み材料が乾いていたら水やりをします。7月から9月は早朝と夕方の時間帯に水やりを行います。秋の長雨に当たると、病気の原因になるので、当てない方が無難です。花芽や新芽が生じている株は、生育に影響するので、乾かしすぎないように注意しましょう。	5月から6月には月1回、固形肥料を施します。あるいは5月から7月中旬に、規定率の2倍に薄めた液体肥料を水やり代わりに施します。肥料分をそれほど要求しない種類なので、いずれか一方を施せば十分です。	植え込み材料は、洋ラン用パークか、水ゴケのどちらかを選ぶのが一般的です。洋ラン用パークは乾きやすいので、容器はプラスチック鉢を選ぶとよいでしょう。	4月から6月中旬に行います。傷んだ植え込み材料を取り除き、一回り大きな鉢に植え替えます。植え込み材料を変更する際は、古い植え込み材料をできるかぎりきれいに落としてください。このとき、根を傷めないようにていねいに少しずつ作業します。	株分け：4月から6月中旬、9月中旬から10月に株分けでふやすことができます。自然に分けられそうな位置を探し、手で分けます。絡んだ根は無理に引き裂かず、消毒済みのハサミで切り分けましょう。切り口に殺菌剤を塗布しておくと安心です。	支柱立て：11月～4月、花茎が伸びてきたら、支柱を立ててビニールタイで留めておきます。花がら摘み：長く垂れる花穂が、そのまま落ちることなく、茶色に枯れていきます。枯れた花茎は、見つけたい指で引き抜いておきましょう。

属名など	栽培環境	水やり	肥料	用土	植え付け。植え替え	ふやし方	主な作業
<p>[ディネマ]</p> <p>Dinema</p>	<p>日当たりのよい場所で通年栽培します。冬は室内の窓辺で、春から秋までは戸外で栽培します。戸外に出すときは、少し日よけをしたほうが株がきれいに育ちます。洋ランとしては比較的低温に強い種類ですが、冬は最低でも5 以上を保つようにします。夏の暑さは問題ありません。</p>	<p>春に新芽が伸び始めてから秋にバルブがしっかりと太るまでは、十分な水やりを行います。冬はやや乾かし気味で大丈夫ですが、蕾を見つけたら水を切らさないようにします。</p>	<p>ふやすことを目的に株をどんどん大きくする場合は、あまり肥料をたくさん必要としません。5月の初めから9月末まで液体肥料を10回程度施すか、ごく少量の緩効性化成肥料を1回置くだけで十分です。</p>	<p>水ゴケを使い、素焼き鉢に植えるのが一般的です。プラスチック鉢でも栽培できますが、冬の気温が低いときに湿らせすぎにしないような管理が必要になります。</p>	<p>植え替え、株分けは春4月ごろに行うとよいでしょう。2号鉢程度に1回植えたなら、大きくはみ出てくるまで植え替えの必要はありません。鉢は素焼き鉢植えが一般的です。株をいろいろな形状に仕立てるのもやはり春に行うのがよいでしょう。工夫したいという人も楽しめます。</p>	<p>リードバルブ(最先端のバルブ)や新芽を含め3～5バルブずつに切り分けてふやせます。</p>	
<p>[エピデンドラム]</p> <p>Epidendrum</p>	<p>鉢植えで栽培し、できるだけ日当たりのよい場所に置きます。日当たりがよいほど花つきもよくなります。真夏日が続く、日ざしの強いときだけ少し日よけをして葉焼けを防ぎますが、基本的には一年中直射日光に当てないようにします。冬は室内でガラス越しの日光に当てます。</p>	<p>植え込み材料が少し乾き始めたところにたっぷりとするようにします。夏の気温が高いときは、鉢内がぬれていても新鮮な水を与え続けます。冬の間は、やや乾かし気味に管理します。株が大きくなると気根を株の上部から出すので、水やりのときに空中にある根にも水をかけます。</p>	<p>春に緩効性化成肥料を鉢の大きさに合わせ規定量置き肥します。また春から秋までは週に1回程度、液体肥料を施します。</p>	<p>化粧鉢やプラスチック鉢に、細かめのバークで植えます。水ゴケで素焼き鉢に植えることもできます。比較的背が高くなる植物ですから、化粧鉢などのやや重めの鉢を使ったほうが転倒防止にもよいでしょう。</p>	<p>2年に1回程度植え替えを行います。株分けをする場合は、あまり株を細かくしないように注意します。茎の本数が多いほうが見事に咲くので、比較的大きな株を維持するようにしましょう。</p>	<p>株分け:適期は4月です。根鉢をていねいにほぐして、分けられそうな位置でほぐし分けます。手で分けられない場合は、消毒済みのハサミで切り分けます。</p>	<p>花がら摘み:たいへん長く咲く花ですが、1輪の花が長く咲くわけではなく、花芽の中央に次々と蕾をつくり開花を続けます。古い花が茶色く枯れ込んできたら、ていねいに取り除いてきれいな花のボールを保つようにします。</p>
<p>[ハウエアラ]</p> <p>Howeara</p>	<p>栽培のポイント 涼しい湿った風を好む。夏は日陰に吊るして水もタップリ与える。冬は室内で最低気温7～10度で水やりはやや控えめに。ということになります。</p> <p>[栽培のポイント] 交配の親の影響を受け暑さはやや苦手ですが、寒さには強く最低気温が10度を下回っても平気です。夏場はオンシジウム以上に直射日光を嫌い涼しい湿った風を好むので木陰などに吊るすのがポイントです。秋から冬にかけては-低温に強いので-早くから室内に取り入れず、ぎりぎりまで戸外に置いた方が良く育ちます。戸外のほうが風があるからです。(夏場)オンシジウムに比べると暑さを嫌い直射も苦手ですから、木陰の風が良く通りできるだけ湿度の高い場所で栽培します。特に“瀬戸の夕嵐”の時期、8月初旬からお盆までは置き場によっては扇風機で風を送ってやることも必要です。温度も湿度も高くその上風が無いと株が弱るからです。水は毎日一回夕方頃に頭から株全体を洗い流すように与えます。(冬場)最低気温が7度以下になったら室内へ取り込みます。できるだけ窓辺のほうが良いです。秋から春まではオンシジウムのように良く日に当てて心をかけます。夏場、どうしても遮光を強めにとるので秋から春の間も日陰に置いたのでは日照不足になるからです。花は早ければ初冬に咲くので終わったあとは3月までおとなしく冬越しさせれば良いからです。水も控えめに鉢の表面が乾いているのを確認して夜には乾いている程度に与えます。&lt;生育と開花のパターン&gt;春に出た新芽が夏に向かって生育し、初秋にはバルブになって同時に花芽が覗いてきます。花芽は年末に向かって伸びてきてつぼみも付いてきます。そして多くは年内に開花します。このあたりはオンシジウムとまったく同じパターンです。&lt;開花中の管理&gt;直射日光の当たらない風通しの良い場所に置きます。寒さには強く最低気温7度以下でも枯れることはありません。水は鉢の表面が乾いてから与えます。大体3.4日に一度です。一律に毎日一回与えるのは多すぎます。 出典:タローさんの洋らん栽培</p>						
<p>[マキシラリア]</p> <p>Maxillaria</p>	<p>日当たりのよい環境を好む洋ランです。冬は室内の窓辺で、4月ごろから10月末までは戸外で管理します。戸外では35%程度の遮光をした明るい場所に置きます。このとき暗くしてしまうと(遮光が強すぎると)花つきが悪くなります。</p>	<p>春から秋までの生育期間中はたっぷりと水を与えます。秋の終わりに室内に取り込んでからは乾かし気味に管理し、蕾を見つけたら開花するまでは少し水をふやします。</p>	<p>4月の終わりに油かす系の固形肥料を鉢の上に置き、同時に液体肥料を施し始めます。油かす系の固形肥料は7月まで数回施します。液体肥料は9月末まで週1回の割合で施し続けます。</p>	<p>水ゴケで素焼き鉢に植えます。大株になってきたら、大きな化粧鉢やプラスチック鉢を利用し、洋ラン用バークの小粒(S粒)で植えるといいでしょう。</p>	<p>植え替えや株分けは原則的に春に行います。比較的長い期間同じ鉢に植えておいても育つので、鉢いっぱいになってから、一回り大きな鉢に植え替えるか、株分けをします。</p>	<p>株分けでふやします。3バルブずつの小さな株に分けてもよいし、もう少し大きな塊で分けても大丈夫です。好きなサイズでふやしてみましよう。</p>	
<p>[マスデバリア属]</p> <p>Masdevallia</p>	<p>低温には強いランなので、11月から4月中旬までは室内の窓辺に置きます。ただし、直射日光には当てないように、レースのカーテン2枚越し程度の日照量にしましょう。暖かくなってからの窓の近くは、高温にも注意が必要です。4月下旬から10月いっぱい、屋外の遮光した場所に置きます。遮光50%を基本にし、日ざしが強くなる梅雨明けから9月中旬は、遮光60～70%にします。暑さには十分気を付けて、扇風機で一日中風を送り、涼しい環境をつくるようにしてください。食品用の冷蔵庫を利用するのもよいでしょう。</p>	<p>水を蓄えるバルブをもたないので、乾燥には注意が必要です。通年、植え込み材料が乾ききる前に水やりをします。ただし、真夏に屋外で管理しているときは、湿った植え込み材料が暑さで煮えたようになり、根を傷める心配もあります。真夏はやや乾かし気味に管理することも一案です。</p>	<p>4月中旬から6月までは、規定より3～5倍にし薄めた液体肥料を2週間に1回ほど施します。あるいは、真夏を除いて同様の液体肥料を、月1回ほど与えます。なお、生育の悪い株や植え替え直後の株には、肥料は不要です。</p>	<p>植え込み材料として、洋ラン用バークや、水ゴケを使います。プラスチック鉢に植えるときは洋ラン用バークを、乾きやすい素焼き鉢に植えるときは、保水力のある水ゴケを植え込み材料に選びます。</p>	<p>植え替えの適期は10月から11月です。ただし、生育初期の3月から4月上旬であれば、まだ間に合います。水分を好むランなので、植え込み材料は水ゴケがおすすです。蒸れが気になるのであれば、通気性がよいバーク植えでもよいでしょう。</p>	<p>株分け:適期は10月から11月です。大株になったために蒸れが生じ、株が衰弱することもあります。春に株分けするのなら、できるだけ早いうちに行います。遅くなると暑い時期までに株が回復せず、衰弱してしまうこともあるので要注意です。</p>	<p>支柱立て:秋から早春にかけて、蕾ができる時期です。花茎が伸びてきたら支柱を添えてビニールタイで留め、安定させておきます。</p> <p>花がら摘み:花は長もちしますが、しおれてきたら、花茎のつけ根から切り取ります。</p>
<p>[オンシジウム]</p>	<p>5月中旬から10月中旬の、平均気温が15度以上で日ざしの強い時期は、戸外の風通しのよい日なたに置き、50～70%の遮光ネット越しの日光に当てます。4月中旬以降</p>	<p>オンシジウムは水を好むランです。植え込み材料が乾いたら、鉢の大きさと同じくらいの量の水を少しずつ注いで与えましょう。晩秋から気温が下がったら、徐々に水やりの間隔をあけてい</p>	<p>3月下旬から7月上旬、9月中旬から10月中旬は、水やり3～5回につき、1回の割合で液体肥料を施します。また、5月初旬には、固形肥料を施します。固形肥料は、春の1回置き肥をします。</p>	<p>洋ラン用バークや、水ゴケを植え込み材料として利用します。乾きやすい洋ラン用バークはプラス</p>	<p>適期は3月下旬から4月上旬です。新しい鉢に根鉢を入れたときに、新しいバルブ側面に、指2～3本が入るすき間があるサイズを選びます。バルブが鉢縁にせり上がるよう</p>	<p>株分け:適期は3月下旬から4月上旬。オンシジウムはおう盛に育つと、自然に2株に分かれることが多く、株分けしやすい傾向にあります。指2～3本が入るすき間の株の大きさよりも、新芽の数が均一になるようにしましょう。根鉢</p>	<p>支柱立て:11月ごろになると、バルブのつけ根や葉の間から花茎が伸びてきます。1～2輪が咲いたときを見計らって、鉢の中央付近に支柱を立てる。花芽の根を</p>

属名など	栽培環境	水やり	肥料	用土	植え付け。植え替え	ふやし方	主な作業
Oncidium	日さしに当てます。10月中旬以降、平均気温が15℃より下がってきたら、室内へ移動させましょう。5月中旬までは、室内の日当たりのよい窓辺で管理します。	きますが、花茎が伸び始めたら、今度は間隔を狭めていきましょう。どんなときも、1回に与える水量は変えず、水やりの間隔で水やり具合を調整することが大切です。	固たけで1分です。施しすぎると、根腐れの原因になります。注意したいのは、春に植え替えた株への施肥です。植え替えから1か月以上たつて、根が伸び始めてから、肥料を施し始めましょう。	チック鉢と組み合わせ、保水力のある水ゴケは、素焼き鉢と組み合わせるのが一般的です。	に成長した株は、植え込み材料に傾斜をつけて、古いバルブをやや深めに、新しいバルブ側を高めに植えて、株が傾いて見えないように植えつけましょう。	は、ピンセットや割りばしでいいにほぐし、古い植え込み材料と傷んだ根を取り除いておきます。根をほぐすと、自然に2株に分かれますが、分かれな場合は、消毒済みのハサミで根を切り分けま	に支柱を立てて、花茎の根元から10cmくらい上と先端から少し下の計2か所をビニールタイで留め、両者のちょうど中間の位置を、もう1か所留めます。